医師

令和6年度　病院勤務医の負担軽減及び処遇改善に資する体制

令和6年4月

項目①労働時間管理等

	課題	計画	進捗状況（評価）
労働時間管理 勤務形態	時間外労働時間の内容及び時間の把握	時間外労働時間を勤務時間管理簿により内容を把握する。また分析を行い、問題点や課題を検討し是正に結びつける	毎月　医師の働き方検討委員会にて実績報告を行い、併せて長時間労働となっている者についての問題点などを分析し職場長へ伝達し是正に努めている。
	特定医師の超過勤務80時間超えについて	毎月超過勤務時間を委員会で共有し、今後の取り組み内容について検討する。	同上
	勤務医確保による医師の負担軽減	大学派遣、紹介会社、知人を通じて等、利用できる手段を取り入れ、医師の確保を行う。	定期的に関連大学を訪問し、医師派遣の教授に対して医師派遣の依頼をしている。また、令和6年度は民間紹介会社と契約し医師確保に努めていきたい。
	短時間勤務医師の採用について	常勤職員でも短時間勤務者やワークシェアリングなど、医師の負担に合わせた柔軟な勤務形態の構築を将来に向けて検討していく。	規程の範囲内で医師を採用している、

項目②他職種・チームによる支援

	課題	計画	進捗状況（評価）
医師事務作業による支援	保険関係書類等の作成	メディパピルスを活用し、医師の負担軽減する。	実施できるよう計画を進めている。
	診療予約、検査オーダー、投薬確認、コストチェック等	診療・検査予約、投薬や次回受診時の説明、検査データの準備など診療の支援をする。	実施している。
	診療録の代行入力	代行入力により医師の負担を軽減する。	実施できるよう計画を進めている。
看護部門による支援	看護師が対応可能な業務（静脈路確保、静脈注射、薬剤投与量調整等）を整理し、院内の基準の作成や見直しを実施	医師の事前の指示の範囲内において、看護師の観察に基づき投与できる薬剤の種類や取り決め、薬使用料、使用方法、相互作用など処方の内容に関するマニュアル整備や確認研修の実施を図る。	マニュアルの整備や医師の具体的指示に基づき実施している。また定期的な院内研修の実施や、特定行為研修を実施しアセスメント力強化に取組んでいる。
	患者や家族への説明の充実	説明内容についての医師との調整や説明対応者の育成指導を行う。療養生活上の指導は積極的に行う。	実施している。また医療メディエーター研修の実施や受講を推進し計画的に取り組んでいる。
	看護専門外来の設置と推進	糖尿病、緩和ケアなど専門看護師による専門外来を実施。患者相談や処置、指導を行う。その他、栄養管理士、薬剤師など、他部門より専門的な説明を行う機会も設ける。	実施している。
	入退院支援看護師の活用	退院支援に関する専任看護師を配置し、入院時から退院に向けた支援を共同して推進する。	実施している。
他部門とのチーム医療の推進	薬剤部門による支援服薬指導の実施	入院患者の服薬指導や副作用の観察等を行い、診療の省力化と患者の安全管理を行う。救急外来における服薬指導も実施する。	入院時の初回面談による情報収集を行い、入院中における副作用の発現の有無を観察している。救急外来における服薬指導は薬剤師が担当している。

医師

	課題	計画	進捗状況
他部門とのチーム医療の推進	持参薬、処方薬等の確認業務薬剤師の病棟配置による支援	入院時持参薬の鑑別や服薬状況の調査を実施し、診療支援を行う。病棟薬剤業務として医師、看護師の身近で連携を図り情報交換を実施する。	新規入院患者における持参薬の鑑別は概ね達成出来ている。整形外科においては、持参薬の代行入力、定期処方の継続処方の代行入力を開始している。
	管理栄養士による栄養指導	糖尿病外来などにおいて、栄養士が患者を直接指導するなど、診療サポートに取り組む。	火・水曜日は地域からの紹介患者さんや、その他の患者さんも、医師の指示のもと外来診察室で、当日の栄養指導実施。他の曜日に関しても、当日の急な指導要請にも出来る限り応じるようにしている。
項目③他の医療機関等との役割分担による支援			
	地域の医療機関との情報共有の推進	医療連携セミナーや市民医療セミナー、研修会、講演会等の積極的な実施により、他の医療機関の医師と面識を持つ機会を増やし、紹介逆紹介を推進する。	研修会等実施し、面識を持つ機会はあったが、参加する地域の医療機関が少ないため、効果は薄いと考える。直接訪問を目指したい。
	地域の医療機関との役割分担ならびに外来の縮小	地域医療支援病院として、紹介逆紹介を推進する際、当院が推奨するバトンタッチ紹介を患者に周知し、診療への理解を高めて頂く。	実施している。
	在宅医療、介護施設との連携	地域連携部、退院支援看護師等により在宅医療・介護施設と連携し、診療体制に切れ目のない在宅医療や在宅ケアの支援を提供する。	PFMをを取り入れ、入院前から患者の情報を把握し退院に向けた課題を抽出する事で、退院困難な患者にもれなく早期に支援を開始する事ができている。 それにより入れ目のない医療とケアの提供に貢献している。